

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【I, II, IV, V】
2 実施対象者	常総市立玉小学校 全校児童
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（生活科，総合的な学習の時間，体育）</p> <p>② 行事名（おもてなし・マナー講座）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（子ども伝統文化フェスティバル参加）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック、パラリンピックの学びを通して、2020東京オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高め、スポーツの楽しさを感じる。 ・自分達ができるおもてなしやボランティアについて考え、実践しようとする態度を育む。 ・自分達の地域に伝わる伝統芸能について学び、誇りをもち伝承していこうとする態度を育む。
5 取組内容	<p>1 「オリンピック、パラリンピック」についてのクイズをもとに調べ学習し発表する。(全校児童)</p> <p>○クイズQ&A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック、パラリンピックは何年に開かれるか。その時、自分は何年生になっているか。 など <p>○全校児童が、学年ごとに生活科や総合的な学習の時間を活用し、オリンピックやパラリンピックについて調べた。</p> <p>○家庭でも話題にすることで、家族もオリンピックやパラリンピックについて関心をもてるようにした。</p> <p>○調べたことをもとに、それぞれにクラスで発表会をおこない関心を高めた。</p> <p>2 オリンピックの種目（陸上競技）を体験しよう。 オリンピック種目の中でも、児童に親しみのある陸上競技について、今まで経験したことのないスターティングブロック等の用具を使用し、より本物の競技に近づけて体験できるようにした。種目については、短距離走、ハードル走を行った。</p> <p>3 「おもてなし・マナー」を学ぶ(全校児童，保護者)</p> <p>○元CAで現在は筑波大学・大学院客員教授の江上いずみ氏を講師として迎</p>

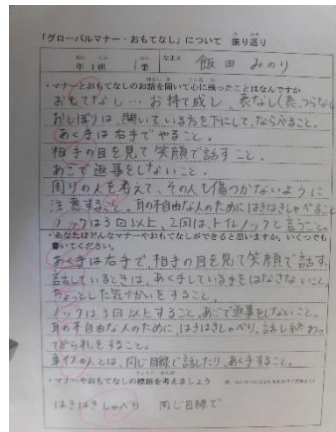
- え、「グローバルマナーとおもてなしの心」の授業を行っていただいた。
- 低学年、高学年に分けて2回授業を実施していただき、その際保護者にも呼びかけ、児童と一緒に聞いてもらった。
 - 「おもてなし」の標語を作り、廊下等に掲示した。



低学年にも分かりやすい授業



目と目を合わせて挨拶の練習



児童の振り返り



茨城新聞に掲載

○児童の「おもてなし、マナー」の標語（抜粋）

- ・あいさつは 誰でもできる おもてなし
- ・お話は はきはきしゃべり 同じ目線で
- ・あいさつは 笑顔ではっきり 気持ちよく
- ・ノックはね 3回以上がマナーです
- ・身だしなみ 整えることが マナーの一步
- ・目を見て 笑顔で 右手で握手
- ・分離礼 あいさつしてから礼しよう それも一つのおもてなし

4 「ブラインドサッカー」の実施（高学年）

- 児童の調べ学習の中で関心が高く、体験してみたいスポーツの一つであった「ブラインドサッカー」を体育の授業で実施した。



○児童の感想

- ・集中して、耳を澄ましないとボールがどこにあるかわからなかった。
- ・これで試合をする人は、すごいと思った。みんなで競技してぶつかった

- りしないのか、怖くないのかと思った。
- ・相手のことを考えないとパスが出せないと思った。
- ・東京パラリンピックでは、ブラインドサッカーを応援したい。

4 地域の伝統芸能を学び伝承していく。(低学年)

○1年生, 2年生が生活科の時間に, 玉地区のお囃子保存会の方から天神囃子を指導していただいた。

- ・玉太鼓 締太鼓 鉦
- ・豊年踊り

○11月 学校行事「三世代ふれあいの集い」で発表した。

○11月 市のイベント「常総ふるさと祭り」で発表した。

○平成30年2月4日

茨城県主催「子ども伝統文化フェスティバル」で発表した。



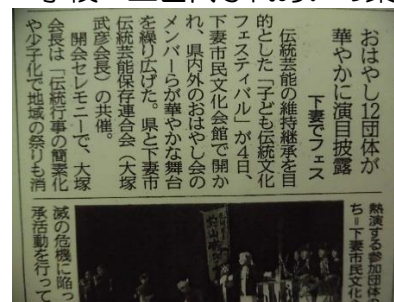
市主催「常総ふるさとまつり」



学校「三世代ふれあいの集い」



県主催「子ども伝統文化フェスティバル」 新聞報道



○児童の感想

- ・練習が楽しかった。太鼓がたたけるようになって楽しかった。
- ・みんなから拍手をもらってうれしかった。もっと上手に豊年踊りを踊りたい。今度は玉太鼓を練習したい。
- ・みんながよろこんでくれたのでとてもうれしい。練習してよかった。

6 主な成果

1 オリンピック・パラリンピックの調べ学習について

- ・実際に調べたり, 話題にすることによって, オリンピック・パラリンピックについて興味関心が高まってきている。
- ・2020年には, 6年生は中学3年生生になっていることに気付き, より身近に東京オリンピック・パラリンピックを考える雰囲気が出た。
- ・オリンピック・パラリンピックを家庭で話題にすることで, 保護者も関心が高まってきている。

2 オリンピックの種目(陸上競技)を体験する

- ・今まで経験したことのないスターティングブロックや数多くのハードルを使用することで, 児童たちは興味関心をもって, 意欲的に取り組んだ。
- ・短距離走などの記録が伸びたことで, 陸上競技が好きになった児童もいた。

	<p>3 「おもてなし・マナー」を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達が行っている「元気なあいさつ」や「返事」がおもてなしの基本であることを確認した。さらに、日常生活の中の基本的なマナーについて学び、早速、アイコンタクトやノックの仕方等等など普段の生活の中で意識する雰囲気が出た。 ・東京オリンピック・パラリンピックの時には、外国の人たちと英語であいさつを交わせるようになり、自分達ができる「おもてなし」を行いたいとの意欲が高まった。 <p>4 ブラインドサッカーの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツを行うことにより、パラリンピックのすばらしさを再認識した。 ・目や耳、体に障害があってもすばらしいプレーができる選手に尊敬の気持ちを抱くようになった。 <p>5 地域の伝統芸能の伝承について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達の地域のよさを再確認できた。 ・地域に残る芸能を引き継ぎ、次の学年に伝えていこうという気持ちが高まった。 ・協力して練習することでより良い演技ができ、様々なイベントで相手（見ている人たち）に喜んでもらえることがわかった。 ・東京オリンピック・パラリンピックという言葉からスポーツ競技を想像するが、おもてなしやマナー、郷土の文化の理解もオリンピック・パラリンピック教育の学習であることを児童とともに職員も再認識した。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師との連携 ・各種イベントへの参加
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピック教育を進めていくためには学校全体で事業の趣旨を理解し、全体計画を確認して推進していく必要がある。 ・総合的な学習の時間や体育などの時間で実施したが、系統立てて学習するためには、学校行事や授業等とあわせて綿密な全体計画を立て実施する必要がある。 ・事業に係る外部講師の派遣や人材を確保することが難しかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコットの選定を話し合うことにより、オリンピック・パラリンピックへの関心がさらに高まっている。話題を提供しながらさらに機運を高めていく。 ・児童が学んだことを次年度にもつなげていけるように、職員間で共通理解を図っていききたい。 ・郷土の伝統芸能の伝承は、外部講師と連携して続けていく。